キャラクター名
堂島翼

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス モルフェウス	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17歳	性別	女
覚醒	素体	衝動	自傷	初期侵食率	32 %
出自	父母不在	経験	消せない傷	邂逅	秘密

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	4	0	0			4
精神	0	1	0			1
社会	2	0	0			2

HP	25
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術： 2			知識：	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	8r	3	33		武器精製、砂の加護
	白兵	8r	3	33		↑にギガンティックモード追加
	白兵	16r	3	33		↑にサポートデバイス追加

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
防弾防刃ジャケット	6	3	-	-	

合計装甲：	3	合計回避：	0

所持品	
カジュアル	
携帯電話	
アクセサリー	
制服	
フォーマル	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
赤羽奏	P 純愛	N 隔意		
堂島大吾	P 尊敬	N 敵愾心		
錬金術師	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
CR:モルフェウス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果： C値を-LV値（下限7）								
砂の加護	5	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果： 対象の判定ダイスを+[Lv+1]個/１ラウンド								
インフィニティウェポン	1	5	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 種別:白兵、技能:白兵、命中:0、攻撃力:+[Lv+7]、ガード値:3、射程:至近の武器を装備する								
咎人の剣	5	4	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果： IWで精製した武器の攻撃力を+[Lv*5]する								
ギガンティックモード	1	3	メジャー	武器	範囲（選択）	対決	-	
効果： 攻撃の対象を範囲（選択）に変更。判定後、武器が壊れる								
サポートデバイス	3	6	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果： ラウンド中、肉体を使用した判定ダイスを+[Lv*2]個する。3回/1シナリオ								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

彼女の名前は堂島翼。戦士にして剣女、戦う為に生まれ、敵を斬る為の道具でありながら、されど人を望んだ少女。その暖かくも非常な運命を語るなら、三度、時計の針を逆しまに回すとしよう。

堂島家。怪物殺し、異能殺し。この世の摂理に反する存在を狩り続けてきた、剣豪の一族。彼女はその家を継ぐ者として、多大な努力を積み重ねてきた。

――語弊を謝罪しよう。彼女は一族を継ぐ者ではない。

――継ぐ、物だ。

異形狩りの一族、堂島家を象徴する人柱。怪物を殺し、異形を殺し、この世にあってはならないモノを殺す者共。それが現代において獲物と定めたモノを殺す為に、何百何千という屍を築き上げてきた事、その上に一人の少女が立っている事を知る者は、本当に少ない。たとえ怪物を殺す為とは言え、誰がそんな事を想像するだろうか。

即ち、堂島翼というオーヴァードを作る為に、数え切れない程の子供達を実験台にしてきたという、狂気的事実。

翼は、堂島家の本当の娘ではない。対オーヴァード用の優秀な戦士を生み出す為に、堂島家が実験台として連れてきた子供達。翼はその中の一人であり、本当の両親は物心付く前にオーヴァードに殺されている。

オーヴァード覚醒に必須なレネゲイドウイルスの適合実験、泣く事さえ許されない堂島流剣術の修行、血反吐を吐くのが仕事と言わんばかりの投薬処置。施設には毎日悲鳴が絶えず、一人、また一人と、哀れな孤児達は狂い、崩壊し――死んでいった。

目的はただひとつ。一匹でも多くの怪物を殺す為。